



preface

SDGs 目標4 質の高い（英語）教育をみんなに！ ··· ··· P1
『外国語活動SDGs一受け入れ認め合う（多様性）』への第一歩～ My Dream Friend～ ··· ··· P2
子どもたちの国際理解 ··· ··· ··· P4
言語活動の充実を目指して ··· ··· ··· P6
SDGsで何でもできる、指導者もわくわく！ ··· ··· P8

～ SDGs 目標4 ～



「質の高い教育をみんなに」には、すべての人人が公平に質の高い教育が受けられる世の中を目指す内容で、世界中の人々が生涯学習を受けられる機会を促進させます。

SDGsが入ってきた！

今年に入ってから、コロナ禍で家にいることが多いせいか、さまざまな場面でSDGsを扱った宣伝広告、テレビ番組を目にするようになりました。ストップ温暖化、マイクロプラスティック問題、気候変動など、社会が本気で持続可能な社会に向けて動き始めています。これまででもユネスコスクールを中心に、持続可能な開発のための教育(ESD)が行われてきましたが、「ESDがSDGs達成の貢献に資する」という考え方も明確化され、これからはSDGsが目指すべき資質・能力として扱われるようになります。



ところで、SDGsの目標4は「質の高い教育をみんなに」です。日本では学習指導要領に基づき、全国どこで教育を受けても一定の水準の教育が受けられるようになっています。しかし、コロナ禍の今、求められているものはオンライン授業やドキドキしながら制約のある対面授業です。先生方の学びの場もオンラインが主流となり、授業を見合っての研修はままたらない状況にあるのではないでしょうか。さらに先進国であるはずの日本で教職員のワクチン接種は出遅れ、教育現場はまだまだ我慢を強いられています。このような中で、English Cafe vol.2で取り上げたブータン王国は、既に教員のワクチン接種は済んでおり、対面の教員研修も再開されていると聞きます。

We Can Do It！

【写真：教員研修（ブータン）】

今まで国や自治体を挙げて英語の教員研修は進められてきました。ただ、特に小学校における英語の指導者の力量については開きがあり、学校ごとの格差が心配だという声を耳にします。教材の整備や指導者の悉皆研修が強化されてきたものの、先生方の異動や学校規模によって専科教員や教科担任の活用もまだ不安定な状況と予想されます。これまで十分な研修を受けていない担任の先生が、電子教材を駆使しながら授業に臨むという現状もあります。加えて昨年度からのコロナ禍で出端をくじかれ、課題は山積みです。だからこそ、英語教育においてもSDGsの目標4「質の高い教育」は急務なのでしょう。

さあ、今回はどんな挑戦ができるでしょうか。We Can Do It !!



【写真：幸せの国の先生たち】

開隆堂

『外国語活動(3学年Let's try!)とSDGs-受け入れ認め合う(多様性)』への第一歩

～ My Dream Friend ～

仙台市立黒松小学校 教諭 岡本由起



3学年の[Unit 4; I like blue.]で扱うcolorと「多様性-認め合い, 受け入れる」を関連づけて授業実践を試みました。

① 単元名 「My Dear Friend」

～単元のねらい～

- ・世界には、多様な見方や考え方があることに気づかせる。
 - ・世界には、様々な人々がいて、共通点や相違点があることに気づかせる。
 - ・世界の人たちと仲良くしていこうという心情を育てる。
- (多様性の尊重)
(人権の尊重)
(共生と平和への素地)

② 指導計画

第1時	世界の虹とポストの色を知り、物の見方の多様性を知る。
第2時	世界の人々の髪、目、肌等の色を知り、世界には様々な人々がいることを知る。
第3時	それぞれに違いがあっても、同じ地球に住む仲間として、「夢の友達」の絵を描く。

③ 指導の流れ

(ア)第1時 「虹の色は、七色? ポストの色は、赤!?

日本では「虹の色は?七色? 世界の国々の虹の色は…?」という問い合わせからスタート。“The colors of rainbow are red, orange, yellow, green, blue, navy and purple in Japan and China. There are seven colors.”と、お馴染みの七色の虹を示した後で世界の国々の虹を提示します。



T What are the colors of rainbow in Germany?

Yellow, Blue, Green, Red, Purple

五色だ! Five!

並び方も違う!



T What are the colors of rainbow in Kenya?

Red, Yellow, Green, Black

四色しかない。Four!

黒もある!国旗の色だ。

虹は同じ物なのに、国が違うと色も違うんだね。

おもしろい。



V 次に、世界のポストの色や形も取り上げました。(世界各国のポストの写真を提示)

T What is the color of the post in America?

It's Blue!

形も日本のポストと違うね。



T What is the color of the post in Spain?

(他にも、台湾・フィンランド…などの国のポストを提示)

Yellow!



V 日本の赤色のポストが当たり前だと思っていた児童には大きな驚きだったようです。『違う』があるということへの気づきを促す第一歩となつたのではないかと思います。

児童の振り返り

- ・世界中には、いろいろな色のポストがあることが分かりました。虹は見る人によって色が違って見えるのだなと思いました。

(イ)第2時 「世界の人々は、みんな同じ!?」

第2時は、写真や絵本を見ながら世界の人々の髪、瞳、肌の色に注目し、さまざまに異なっていることに気づきました。



What color are their eyes ?

(写真や絵本、さらにALTの顔など世界中の人々を観察しました。)

Brown , Red , Blue , Green , Orange



外見上の相違点に気づかせたその後、写真絵本『The One and Only Special Me』を読み聞かせ、世界中の人々は髪や肌の色が違っていても、自分たちと同じように遊んだり、本を読んだり、絵を描いたりするのだということに気づかせることができました。

児童の振り返り

- ・世界の人々は、同じところもあれば違うところもあっておもしろかったです。
- ・色々な色の目、体、髪の色があることを知りました。同じ人間なのに、国が違うとこんなに違うということが不思議でした。人間って不思議でおもしろいなと思いました。

(ウ)第3時 「My Dream Friend - 世界中に友達ほしいな！」

世界にはいろいろな人々がいて、同じところも違うところもあることを振り返った後、こんな友達がいたらいいなという『My Dream Friend』の絵を描いて、この授業のまとめとしました。どの児童も楽しんで夢の友達の絵を描くことができました。学習した"color"の英語表現を使って友達の紹介をする予定です。



④ 授業をまとめて

世界の人・物・事の多様性を学習することで、身近な友達の外見や考え方の違いを認められることに繋がっていくことを願っています。例えば、学級の誰かが何かを発信したときに、「それって違う。」「変だよ。」と否定してしまうのではなく「自分はこう思うけど、そういう考え方もあるよね。」「いいね、そのアイディア。」などと相手の考え方を受け止められる人になってほしいと思っています。そういう気持ちを持つことが、世界中の人々の人権を尊重し多様性を認め合うことのできる大人へと成長することに繋がっていくということを願うものです。今回の授業が、現代的な課題—SDGsの目標達成への取り組みの小さな小さな一歩となって、これを機に実践研究もまた持続発展させていきたいと思いました。

参考文献 『The One and Only Special Me』(Written by Rozanne Lanczak Williams Photographed by Michael Jarrett)
『PEOPLE』(Written and illustrated by Peter Spiner)
『こどもSDGs』(秋山宏次郎 監修 株式会社 カンゼン)

子どもたちの国際理解

秋田市立桜小学校 教諭 吉川庸子

♡ 子どもたちは、海外のスポーツ選手や韓国アイドル、映画や料理など、日々の生活経験から他国についての知識を断片的にもっています。そうした知識をつなぎ合わせ、身近な事柄で日本と同じだったり違つたりすることを知る、国際理解を意識した授業を実践しました。

① 単元名 「Let's go to Italy.」

～単元目標～

・ツアーガイドとして、おすすめの国とその理由を、お客様にその国の魅力が伝わるように紹介しよう！

② 指導計画

第1時	様々な国と出会う	第4時	自分の力で、相手に伝えるスピーチを
第2時	言えない・知らないを体感する	第5時	何のためのポスターか
第3時	外国がちょっと身近な国になる	第6時	友達の姿から学ぶ
		第7時	それぞれの国にその国だけの魅力

③ 単元の流れ

この単元では、既習事項を活用すること、他国について知ることの2つに重点を置きました。本単元は既習事項が多いため、それほど難しくはありません。国を紹介するために、これまでの知識や技能をフル活用して、言葉の意味に実感をもたせることができる単元だと思います。また他国について「観る・食べる・買う」の観点から知ることで、子どもたちは自分の生活経験から日本と比べたり考えたりすることが出来ます。

第1時 「様々な国と出会う」

導入では、ALTが実際に旅行した記録を綴っている「Travel Journal」を紹介してもらいました。自分たちの先生が世界各国を旅した記録を見ることで、子どもたちの興味関心は一気に高まりました。美しい景色、おいしそうな食べ物、他の電車の切符…子どもたちの目には全て新鮮に映ります。話は英語ですが、既習事項も交えて身振り手振りで教えてくれるので飽きることはできません。日本の旅記録もあり、ALTを通して見る日本の姿は、子どもたちに日本の魅力を改めて教えてくれました。「一番心に残っている国は」との質問に「やっぱり日本」とALTが答えると、子どもたちから嬉しそうな声がもれました。

第2時 「言えない・知らないを体感する」

自分の生活経験から好きな国とその理由をペアでたずね合う活動をしました。表現自体は簡単でも、子どもたちはやり取りを通して「○○を食べれるって言いたいけど、英語で○○ってどう言うのかな」「この国の良いところって他にもないのかな」と疑問を抱き始めます。この「言いたいけど言えない」という気持ちが、次時の調べ学習のバネとなってくれました。



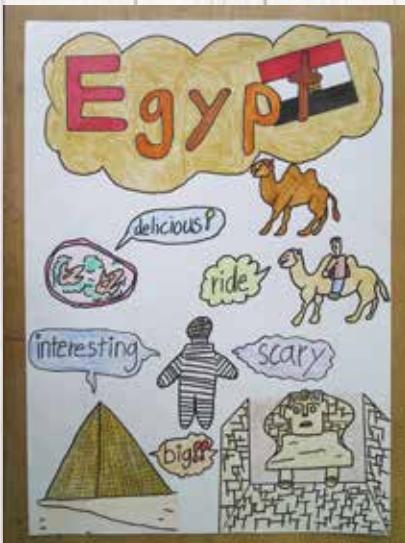
♥ 第3時 「外国がちょっと身近な国になる」

紹介したい国の希望を元に、3人1組のグループを構成しました。資料は、司書の先生に用意してもらった各国の観光ガイドブックです。写真付きで「観る・食べる・買う」が分かりやすく載っている魅力的な教科書になります。読み進める毎にこれまで自分が抱いていた国のイメージが変わったり、断片的だった知識がつながったりと、多くの発見があったようです。「観光」という身近な観点で国と向き合うことで、各国の特徴や魅力に気付く事ができました。また「自分の担当の国」ということも相まってその国が今までよりちょっと身近に感じられるようでした。



♥ 第4時「自分の力で、相手に伝わるスピーチを」

子どもたちは前時に調べた「自分たちだけが知っているその国の魅力」を、他グループの友達に伝えたい気持ちが高まっています。しかし、「マーライオンは全部で7体であり、実は中にエレベーターがあってのぼれる」など、伝えたいことを英語にしようと zwar てもできません。その場合は、先生に言い方を教わっても、難しくて言うのが大変な上に相手にも伝わらない、ということをいつも伝えています。自分の力で英語にできる情報を「取捨選択する」、日本語を英語にできそうな表現に「言い換える」という考え方も大切だと感じます。



♥ 第5時「何のためのポスターか」

スピーチが完成したら、ポスター作成です。国名やおすすめのコメントなど、1文字1文字じっくりと向き合って書きました。国旗は細かいところまで見て「こんなところに文字が書いてある!」など発見もありました。自分たちが調べた情報は、他チームにとっては初めての内容であることを意識してポスター作成に取り組みました。

♥ 第6時 「友達の姿から学ぶ」

各グループでの練習後、グループ同士で見合いアドバイスする時間を設けました。実際に友達を目の前にすると、練習通りいきません。また、相手グループと自分たちを比べ、様々なことに気付きます。「自分が思う2倍の声の大きさじゃないと伝わらなかつた」「○○グループを見て、ジェスチャーはもっと大きさにしてもいいんだと思った」など、友達の姿から「自分たちももっとできる」と改善に向けて練習に力が入りました。

♥ 第7時 「それぞれの国にその国だけの魅力」

いよいよ国紹介のプレゼンテーションです。「自分たちの国」のよさが伝わるように、ポスターの活用、ジェスチャーでの表現など工夫しています。中には、その国の言葉はじめの挨拶をしているグループもありました。緊張しながらも、ガイド役もお客様役も笑顔で他の悪しく発表を終えることができました。最後は付箋紙にお互いの感想を書いて渡します。反省点もありますが、「行ってみたくなつた」など嬉しいフィードバックに安堵の表情でした。他国について友達から聞くことで、「それぞれの国にその国だけの魅力」があることに気付いていました。

④ おわりに

最後の振り返りに「Brazil も日本に負けないくらい良い国だと思った」と書いている子どもがいました。具体的な内容は覚えていないかもしれないけれど、子どもたちの心に他国へ対する前向きな気持ちが残っていることが大切だと思います。「他国について知るって面白い」という気持ちが国際理解の種になり、成長してくれたら良いと思います。

言語活動の充実を目指して

～SUNSHINE ENGLISH COURSEを用いた授業実践～

盛岡市立下橋中学校 教諭 越戸利江

新学習指導要領施行に伴い中学校では、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあつたりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することが目標として掲げられており、この目標を達成するために、「言語活動」を一層充実させることが求められています。

① バックワードデザイン

単元のはじめに、各単元のゴールを生徒と共有することからスタートします。そこで、どのようなパフォーマンスであれば相手に伝わるか、伝える内容や表現の仕方について生徒たちに考えさせ、生徒と一緒にループリックを作成します。ループリック完成後は、パフォーマンステストに向けて毎時間の授業を積み重ねていきます。ゴールを明確にすることで、生徒たちも目標を持って学習に取り組み始めます。

② 単元について

- (1) 単元名 PROGRAM 3 Taste of culture (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
- (2) 単元の目標

東京五輪で来日したカナダ人選手に、おすすめの屋台料理をビデオレターで紹介することができる。

～what food from food stands would you recommend to Canadian Olympians?～

盛岡市はカナダのピクトリア市と姉妹都市であることから、2020 東京五輪に出場するカナダ人選手団のホストタウンに登録されました。カナダ代表選手は7月に行われる事前キャンプで盛岡を訪れることがなっており、直接交流はできないものの、盛岡市のホームページでビデオレターによる交流を続けています。選手と盛岡市民、それぞれの実際のビデオレターを視聴し、盛岡を訪れた際、ぜひ食べてみてもらいたい屋台料理を紹介するというゴールを設定しました。盛岡で食べてみてほしいものを、教科書で扱っている「屋台料理」にしたことで、自分は何を紹介したいか、それを紹介する際に必要な表現はどのようなものか、目的意識を持って、英語を聞いたり読んだりすることができました。

③ 授業の実際

単元のはじめには、自分の好きな屋台料理について、"What food from stands do you like?"に答える形で即興での対話をしました。その食べ物の特徴や好きな理由を述べ、表現するのが難しいのはどのような点かということについて確認しました。

教科書の「Scenes」、「Think」の学習を進めていく中で、自分が屋台料理を紹介する際に使いたい表現、参考にしたい表現などを積み上げていきました。また、ループリックを活用し、現時点の自分の紹介文の内容や紹介する際の表現力をモニターし、教師やクラスメートからのフィードバックを取り入れて、ビデオレターの内容を吟味していました。



(おすすめの屋台料理を即興で伝え合っている様子)



(ループリックを元に紹介文をリライトしている)

(ビデオレター 作成・発表の様子)

④ 生徒の振り返り

パフォーマンステストを終えた生徒たちが次のような振り返りをしました。本校では毎回単元の終わりに、全教科の授業において「リフレクション」と呼ばれる振り返りと交流を行います。

力なだ人選手に屋台料理を
おすすめするときに、その食
べ物についての説明に加え、
自分がすすめる理由、好きな
部分を説明することが大切だ
と感じました。

また、話に合わせた写真や
絵などを使うことで、聞き手が
理解しやすくなることもわかり
ました。

やり取りをしたときに使つ
た、"I see", "Do you know
this?"などの相づちは発表
でも使えると思いました。一方
的なコミュニケーションにな
らないように、いつも相手に
伝えるという意識を持って英
語を使いたいです。

自分で文を作ったり、考
えたりすることができました。今
まで習ったことを生かしなが
ら、伝わりやすいように英文を
考えました。また、事実を自
の意見は分けて書くことがで
きました。他の人の紹介を聞
いて、次はもっと分かりやす
くしたいと思いました。

⑤ 成果と今後に向けて

単元のゴールに向かって毎時間の学習を積み重ねていくことで、生徒たちは目的意識を持って課題に取り組むことができます。単元のゴールが発表であっても、クラスメートとの即興のやり取り、聞くこと、読むこと、書くことの全ての領域の言語活動を通して、生徒たちが相手を意識した上で自分の思いを持って話すことができるようになりました。今後はさらに場面設定などを工夫し、引き続き相手意識を持つことを大切にしながら、自分の思いや考えが表現出来るような言語活動を展開していきたいと考えています。

巻末特集

SDGsで何でもできよ、指導者もわくわく！

SDGsでさまざまなアイディアに挑戦

突然、外国語教育の中で、SDGsと関連させた授業をしてくださいとお願いされたらどうしますか。基本となる表現や言語材料をどんな場面や状況で使わせるか考えてみるものの、「外国語活動では無理！」とさじを投げてしまう先生方もいるかもしれません。しかし、一方で、型にはまらず、自由に様々な角度からアプローチできると考える先生もいます。その授業づくりの達人は手元に教科書や指導書、共通教材があっても子供の実態に合わせ、今までの経験から単元構想を練り上げ、「これだ！」という素材を上手く「料理」します。そして、試行錯誤しながらもオリジナルの指導内容を考えてしまうのです。

今、学校現場では「いじめ未然防止策」についても力を入れていますが、命の大切さや人権を扱う授業はその方策の一つになります。いじめは「人と違うこと」から始まります。人と違っていることは非難されることではなく、むしろ楽しみながら受け取るものである、というメッセージを、英語教育で伝えられたらすばらしいと思います。世界の多様性に触れ、多くの選択肢があること、違っていることを「当たり前」として受け止める視点など、SDGsは教えてくれます。

新たな実践意欲をかき立てよSDGs！

色の学習から世界の多様性につなげる授業である先生が、「なるほど。君には薄いピンクに見えたんだね。」「見え方に間違いはないよ。思った通りに答えていいよ。」と、どんな答えも受け止め、子供が安心して答えられように働きかけていました。学級の中には自由な雰囲気があり、子供たちもどこか伸び伸びしています。人はいくつになっても否定されることに慣れません。繊細で多感な子供たちはなおさらです。自分がまわりから友だちと同じように接してもらっているかどうか、常に敏感です。子供が自分らしくいられる学級づくりは授業の大前提です。授業の中で子どもたちの発言を大切にし、発表してよかつたと思われる支援が重要なのかもしれません。

英語をたくさん使って授業のねらいに迫ることが理想ですが、グローバルな視点でSDGsの目標に関する項目を初等教育の段階で積極的に英語教育に取り入れる意義は大きいと感じます。そして、指導者も楽しみながら教材研究をし「次はこんなことをしてみたい。この絵本を使いたい」と新たな実践への意欲をかき立てられながらの教材研究を行うことが一層大切になってくるのでしょうか。SDGsにはそんな可能性が秘められています。

皆さんなら持続可能な開発目標のどこから手をつけますか？



【写真：南米の街並み】

開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1
TEL:03(5684)6111

東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10
仙台TBビル 4F TEL:022(742)1213

English cafe/バックナンバー
はこちらより閲覧できます



非売品

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成、配布しております。